

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家(第1ユニット)		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	令和6年12月12日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JivgosvoCd=0170201883-00&ServiceCd=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとにイベントを設け、四季を目や耳、肌で感じて頂けるようレクリエーション等を企画している。春には花見、秋には紅葉など、施設の中では感じることでできない空気を少しでも味わっていただけるように。
また、入居者の方々の希望に沿った催しも行っており、ユニット全員で外食をしたり、神社やお寺のお祭りへ参加するなど、少しでも入居者の方々に楽しんでいただけるよう努めている。
感染対策も事前に全職員に周知し、感染者が出た時にも滞りなく運営ができるように取り組んでいる。
事業所内での勉強会を月に1度行い、介護に関する理解を深めていると共に、法人内での研修にも参加し、常に知識を身につける体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌の中心部近くにあり、地下鉄駅から5分ほどの場所にある2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで2～3階が各ユニット、1階に広い共用スペースと事務所、浴室が配置されている。周辺には大型病院や教会、幼稚園、コンビニエンスストアなどがあり、利便性が高い。法人が道内で多くの介護施設を運営しており、研修体制や各種書類が整っている。家族との関係では、個人ごとに毎月「ハート便」という写真を多く載せたお便りを送り、喜ばれている。職員同士のコミュニケーションも良好である。馴染みの関係の継続の面では、利用者が送る年賀状を事業所で作成し、利用者が手書きのコメントを書いて送っている。ケアマネジメントの面では、フェイスシートやアセスメントシートの情報が充実しており、定期的追記や更新も行われている。また、介護目標にそった日々の記録が行われ、計画の見直しに活かされている。災害対策では、高頻度で避難訓練や救急救命訓練を実施し、防災意識を高めている。入浴支援では、リフトが設置された清潔な浴室での入浴が可能である。外出支援の面では、周辺の散歩の他、利用者の希望する買い物の同行支援も行っている。また、大きめ車で気軽に外出することができ、花見や紅葉見物などにも行っている。行き届いたサービスのもと、快適に過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階やタイムカードの打刻場所に掲載し、常に理念を確認、共有できるように努めている。	事業所独自の理念と運営方針があり、運営方針の3項目それぞれには地域との関係を重視する文言を入れている。理念や方針を見やすい場所に掲示し、会議で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて、地域の方にも参加していただき、情報の共有を行っている。	近所の神社やお寺のお祭りに利用者と一緒に出席、交流している。事業所として地域の高校で介護の職業紹介を行ったこともある。以前はボランティアが来訪しての交流もあり、感染症が収束したら再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所内での勉強会の資料の共有、説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内にてご意見やご要望を収集している。ご意見があった際には職員間で話し合い、結果を会議にて共有している。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター、町内会役員、利用者家族の参加を得ている。会議内で様々な研修を行っており、今後は運営に関する幅広いテーマでの討議も行いたいと考えている。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への事故報告の提出にて再発防止等の取り組みについて意見をいただいている。区の保護課や保健福祉課と連絡を取り、入居者の方々の情報共有を行っている。	運営推進会議で地域包括支援センターから情報提供を受けている。区役所に直接出向き、介護保険課や生活保護課と必要に応じた連絡や相談を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会による勉強会を開催し、理解を深めている。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとに委員会と勉強会を行い、身体拘束の有無や11項目の禁止事項を確認している。ユニットが2階と3階にあり、利用者が外出のため1階に降りようとする場合は職員が同行し、閉塞感を感じさせないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて、虐待防止に関しても勉強会を行っている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の申請中の事もあり、ご家族にも説明、同意を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書を用いて説明を行っている。制度改正や加算変更の際には説明をし、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族へ生活の様子を写真にてお送りし、運営推進会議等でご意見、ご要望を募集している。	家族の来訪時や家族に電話をした際に意見や要望を聞き、得られた意見を「家族連絡票」に記載し共有している。毎月、個人ごとの写真入りの手紙「ハート便」を作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談の機会を多く設け、面談以外にも個別に話ができる環境作りをしている。	月1回、全体会議を行い活発に意見交換している。また、年4回以上の個別面談を行っている。職員は感染症や身体拘束の委員に属したり、物品管理や散髪管理などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年4回の評価面談を行い、短期間で振り返り、評価ができる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や働き方に合わせ、育成・指導を行っている。日にちを分け、法人内研修を全員参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止のため実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とお会いし、施設の説明や困りごと、不安なことを傾聴し、少しでも軽減、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にお話を聞き、困っていること、不安なことを少しでも解消して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や見学時にお話を強いたり、事前情報から必要な支援、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	適切な距離感を保ち、少しでも生活をしやすいよう関係性を構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で、ご本人様の情報を伝え、多様なご要望に対応し、相談しやすい環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にて知人とお会いされたり、以前住んでいた場所へドライブをするなど、関係性が継続出来るよう対応している。	2～3名ほどの利用者に友人や遠くの親戚が来ている。知人からの電話を取り次いだり、利用者が送る年賀状を事業所で作成し、手書きのコメントを書いてもらっている。家族と孫の結婚式に出たり、職員と近くの喫茶店に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間に職員が仲介し、性格等を踏まえ、関係性を構築して頂けるように支援している。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも必要に応じて相談業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や、ご家族様から情報収集し、ご本人様の意向に沿ったサービスを提供するよう努めている。	8割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情などから把握している。フェイスシートとアセスメントシートが整備され、生活歴や趣味や嗜好などの情報も詳しく記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の施設からの情報や、普段のご本人様との会話、ご家族様からの情報収集にて以前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発言や行動を観察、記録し、変化に気付くように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをし、職員間で検討、ご本人様、ご家族様の意向に沿って介護計画を作成している。	介護計画を3か月ごとに更新している。モニタリング表をもとに、検討会議で意見交換し、次の計画を作成している。日々の記録である「総合記録シート」は、計画目標の番号を記入しながら作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送りノートを活用し、情報の共有、実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	危険が伴わなければなんでも取り入れ、入居者の方々のニーズに沿っているかを精査している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお寺や神社のお祭りに参加するなど支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向を確認し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。	協力医療機関による月2回の往診があり、その他の医療機関による往診もある。他の通院は家族または事業所が送迎している。受診内容を個人ごとの「通院台帳」に記載し共有している。	

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や、何か気になった際に連絡、相談し、日々のケアに生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院側と情報共有を行い、入院時、退院時にご家族を含め情報共有を行っている。看護添書等を活用し、退院後の生活に活用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の見解の元、ご家族様には当施設での看取りの経過を説明し、同意の元、医療と連携している。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明して同意書に署名捺印を受けている。毎年数名の看取りを行い、経験を積んでいる。また、看取りの勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、AEDの方法等、定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にもご家族様、地域の方見学の元、避難訓練を定期的実施している。	年6回、主に夜間の火災や地震、水害を想定した避難訓練を行い消防と地域の協力も得ている。管理者の指導による救急救命訓練を毎月行っている。また、災害時に必要な備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルや勉強会を通じて都度再認識、実践している。	接遇研修を行っている。申し送りは書類を指さして行い、呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。個人情報書類等も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な範囲でご本人様の思いを尊重し、自己決定して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで生活して頂けるよう、希望や様子を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で好みの服を選んでいただいたり、季節に合った服を用意するなどしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りの元、食材のカットや盛り付け、片付けを行っていただき、食事との関りの場を設けている。	配食業者の食事を利用し、月曜日と金曜日の昼食、夕食は食事担当職員の手作りを提供している。菜園の野菜や旬のものを取り入れている。行事食や誕生会も赤飯など要望に応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増加や医療機関と連携し、栄養状態の把握、食事量の調整や好みのものの提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助、定期的な歯科往診にて適切なケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせた排泄方法にて支援、排泄パターンの把握、定時での声掛け等を行っている。	排泄チェック表で水分摂取量やパターンを把握し、羞恥心に配慮した事前誘導でトイレでの排泄を支援している。入居後、おむつ使用だった方が、布下着に改善するなど、自立に向けた支援や1人ひとりに適切な排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、腹部のマッサージ等でできるだけ自然な排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿った支援をし、拒否がある際にはタイミングや職員を変えるなど入浴に前向きになっていただけるよう対応している。	3日おきを目安に一人週2~3回の入浴支援を行っている。シャワー浴を好む方以外は全員が湯船に浸かることができている。毎回湯を入れ替え10種類の入浴剤から好みのものを選び、同性介助を行い、職員との会話も楽しい時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や覚醒状態を確認し、休息の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法、用量を理解し、頓服薬の追加や変更時には情報を共有し、都度様子の観察、記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを把握し、役割を設け、達成感を感じて頂いている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や園芸作業、ドライブなどの外出レクを行い、気分転換を図っていただけるよう支援している。	季節の良い時期は毎日外出の機会を設けている。事業所の菜園や花壇を楽しみ、近隣を散歩し気分転換を図っている。花見や紅葉狩りなどの季節のドライブ以外にも市内の公園などに車椅子利用の方も一緒に出かけている。個別に外食や買い物、レンタルショップへの外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は職員と一緒に支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には仲介、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った飾りつけや掲示物を貼るなど、落ち着いた過ごしやすい環境づくりに努めている。	食堂兼居間は動線に配慮してテーブル等が設置されている。壁には利用者の作品や写真が季節の装飾とともに飾られている。エアコンや加湿器、空気清浄機が設置され、快適に過ごすことができる。家庭的で落ち着いて過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置の調整など、一人ひとりの性格に合わせた共有空間にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているものを持ち込んでいただいたり、写真やご本人様の作品を飾っている。	居室入り口には色とりどりの折り紙に縁どられたネームプレートがあり自室が分かりやすい。8.5畳の室内には押入れとクローゼットが備え付けられており、ベッドや使い慣れた家具、テレビ等が持ち込まれ趣味の物や写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や躓きやすいものをできるだけなくし、自立した安全な生活が送れるよう環境作りをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家(第2ユニット)		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	令和6年12月12日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=0170201883-00&ServiceCd=320
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとにイベントを設け、四季を目や耳、肌で感じて頂けるようレクリエーション等を企画している。春には花見、秋には紅葉など、施設の中では感じることでできない空気を少しでも味わっていただけるように。
また、入居者の方々の希望に沿った催しも行っており、ユニット全員で外食をしたり、神社やお寺のお祭りへ参加するなど、少しでも入居者の方々に楽しんでいただけるよう努めている。
感染対策も事前に全職員に周知し、感染者が出た時にも滞りなく運営ができるように取り組んでいる。
事業所内での勉強会を月に1度行い、介護に関する理解を深めていると共に、法人内での研修にも参加し、常に知識を身につける体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階やタイムカードの打刻場所に掲載し、常に理念を確認、共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて、地域の方にも参加していただき、情報の共有を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所内での勉強会の資料の共有、説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内にてご意見やご要望を収集している。ご意見があった際には職員間で話し合い、結果を会議にて共有している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への事故報告の提出にて再発防止等の取り組みについて意見をいただいている。区の保護課や保健福祉課と連絡を取り、入居者の方々の情報共有を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会による勉強会を開催し、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて、虐待防止に関しても勉強会を行っている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の申請中の事もあり、ご家族にも説明、同意を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書や重要事項説明書を用いて説明を行っている。制度改正や加算変更の際には説明をし、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族へ生活の様子を写真にてお送りし、運営推進会議等でご意見、ご要望を募集している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談の機会を多く設け、面談以外にも個別に話ができる環境作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年4回の評価面談を行い、短期間で振り返り、評価ができる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や働き方に合わせ、育成・指導を行っている。日にちを分け、法人内研修を全員参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止のため実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ず面会を行い、入居についての不安など聴取し、信頼関係を構築できるよう努めている。入居される前にご家族様へセンター方式をお渡しし、情報の収集にご協力いただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学の際にお困りごとや不安などを聴取している。入居が決まった際も連絡を密に行い、入居前に関係性を構築し、相談などしやすい関係性の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に必要な時には、事業所内にある居宅支援事業所の職員にも同席していただき、必要なサービスがあれば、情報提供を行っている。金銭管理や後見人、福祉用具のレンタルなどの情報もお渡ししている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の希望などを収集する機会を設けている。それぞれの残存能力を活用し、一緒に作業を行っていただけるよう機会を設けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度日頃のお写真を載せたお便りを郵送し、気になることがあれば、お電話や面会時などにご相談いただけるよう、環境整備を行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防に留意しながら、ご家族やご友人の集まる場に参加していただいたり、ご友人とのお電話や面会を行っていただいている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や、機能障害などを理解し、職員仲介の元関わられる環境づくりを行っている。			

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも必要に応じて、相談業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にお話をお聞きし把握に努めている。その方の意向を最優先し、他機関と調整することがある。ご本人様から把握が困難な場合には、ご家族様に協力していただくこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集のため、ご本人への聞き取りやご家族様が知りうる情報を書面で頂いている。現在のご本人様の姿だけでなく、過去の暮らしや性格等にも重点を置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の総合記録や申し送りノート、口頭での申し送りにより、24時間途切れることなく支援している。日々の小さな変化や言動も記録にして共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてご家族様、主治医から意見をお聞きし、より良いサービスを提供できるよう、内容を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートを使用し、日々の様子や特変、週単位での様子を記録している。また、申し送りノートを活用し、より細かい情報を記載して職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望や必要性に応じて、個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加するなど地域行事やイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診内容については必要に応じてご家族様へフィードバックしている。他科受診についてはご家族様に対応をお願いしているが、ホーム対応の場合は経過と結果をご家族様へお伝えしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護、月に二回の往診、歯科往診を含め、相談内容を取りまとめ確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師、看護師、相談員と情報共有を行っている。特に退院後のバックアップ体制の確認や、主治医への情報提供と協力体制の調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向については主治医の見解を確認してからご家族様へ聴取している。終末期の方針が定まっていないご家族様に対しては、急がせずに考えるきっかけ作りとして早期に説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応については、AED操作、心肺蘇生法を研修で実践している。今後も繰り返し訓練を継続する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	腸内の方々や消防団の協力で定期的に訓練を実施している。現在は、感染予防のため不定期で行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人格を尊重するよう意識している。継続的に声掛けやコミュニケーションについての勉強会を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活に支障のない範囲で自己決定や意思を尊重し支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の日々の体調や体力を把握し、興味のある事にお誘いしたりレクリエーションへの参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で整容に気を配っている。整髪、洗顔、訪問理美容。外出時の衣類の選定は職員と共に選んでいる。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の味の好みや食べやすい形状に合わせて提供している。ご入居者様から味やメニューのオーダーがあれば好みの味に近づける様協議して提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に食事量や水分量が少ない入居者様には、無理をして提供せず医師と相談し栄養補助食品を提供している。水分は一度に多く摂取するのではなく、一日を通してこまめに摂取していただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方にはお声がけをさせていただき行っていたりしている。歯磨き粉を付ける、コップに水を入れる、ガーグルベースを準備するなど、支援が必要な方については個々で必要な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を最優先としている。個々の排泄間隔を把握し事前にお声がけやトイレ誘導を行うことで、汚染の頻度の評価を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動性の向上や乳製品飲料、腹部マッサージなどにより、極力下剤を使用せずに排便ができるよう支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお声がけをさせていただき、拒否がある場合には無理をせず日を改めるなどの対応を行い、気分を害されることがないよう意識し支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に合わせて休息していただいている。夜間は静かな環境を作り、安心して眠れるよう居室や廊下の明るさ、音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握できるよう、個別ファイルにて薬内容を管理。服薬に変更があった場合には、お薬情報シートの活用や、受診記録シートに記載・更新を行い、職員全員が確認・把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみを日常的に行っていたりしている。また、畑の水やりやレクリエーションを企画し、楽しみや気分転換を図れるようにしている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って定期的な買い物や個々での外食レク、ドライブに行ったりしている。また天気の良い日にはホーム周辺の散歩にも出かけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の預り金として管理しているが、ご本人の希望に応じて買い物をしている。領収書と残高明細書は毎月まとめてご家族様に郵送している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にお手紙を書いたり、電話の発信受信は職員が行うが、ご入所者様の希望があれば、電話でお話ができる様支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの明るさや清潔感に配慮している。夏冬通して居心地の良い室温に保てるよう、温度調節や換気を行っている。季節に応じた装飾や置物など飾っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にテーブル、ソファを置き一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で談話できるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入りに支障のない範囲でご本人様の馴染みの家具など置いて頂いている。テレビ、冷蔵庫、仏壇、お供え物などについては職員が介入し出し入れさせて頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下、トイレに手すりの設置。浴室には自動リフト浴の設置を行い、安全で快適に過ごして頂けるようにしている。車椅子も予備を設置しており、必要に応じて併用できるようにしている。			